

東お多福山草原刈り取り管理の2年間の成果と今後の展望

桑田 結 (ブナを植える会)・
 芦屋森の会 2001・日本山岳会 関西支部・六甲楽学会

はじめに

東お多福山には六甲山系で唯一の広大な草原が広がっています。かつては草原生の植物の豊かなススキ草原でしたが、近年の管理停止や山火事の減少のため、ネザサが勢力を広げススキや草原生植物が極端に減少しています。私たちは、生物多様性の保全再生の観点からかつてのススキ草原の復元を目指して、平成19年秋より3年計画でネザサの刈り取り管理実験を行っています。

活動報告

平成19年11月から100㎡のコドラードを6カ所(No.1~6)設置して、ネザサの刈り取りを行いその後の植生や種組成、出現種数の変化を追うための植生調査を刈り取り前(平成19年)、刈取1年目春・秋(平成20年5月と10月)、刈取2年目春・秋(平成21年5月、10月)の5回行ってきました。2回刈り区(No.1、2、4)では平成19年秋、平成20年秋の2回ネザサを刈り取り、3回刈り区(No.3、5、6)は平成19年秋、平成20年夏、平成20年秋の3回ネザサを刈り取りました。

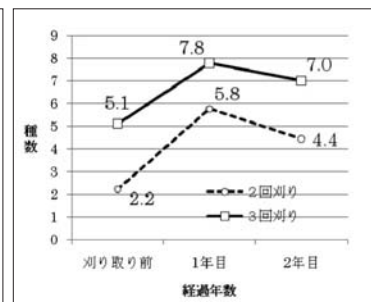
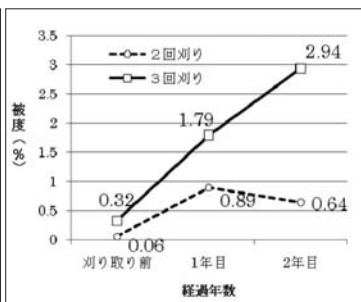
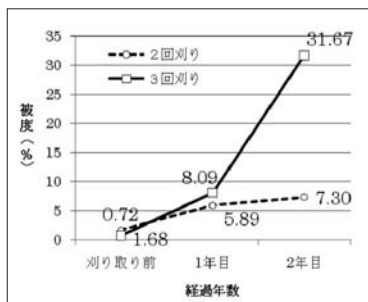


図1 ススキの被度の変化 図2 草原生植物の植被率の変化 図3 草原生植物の種数の変化

結果、ススキの被度、草原生植物の被度の回復は2回刈りより3回刈りの方が、効果が高いことがわかりました(図1、図2)。また草原生植物の5㎡当たりの平均出現種数の変化は2回刈り区、3回刈り区ともに、刈り取り1年目に約3種の増加が確認されましたが、2年目は種数の増加はほとんどなく横ばいとなりました(図3)。東お多福山の草原が長期にわたって管理が放棄された影響で、草原全体で草原生植物の種類数が大幅に減少しているため、小面積刈り取っただけでは種数の回復には限界があるのかもしれません。

今後の活動

平成22年度は次の日程で行事を行います。一般参加を歓迎します。ふるって参加下さい。

平成22年5月12日(水) (予備日5月13日(木))、7月26日(水) (予備日7月27日(木))、
 10月13日(水) (予備日10月14日(木))、11月24日(水) (予備日11月25日(木))

集合場所は東お多福山北山麓の土樋割峠(阪急バス東お多福山登山口下車、徒歩25分)で、午前9時30分集合です。また、東お多福山が都市近郊という好立地にあることを活かして、環境学習の場として整備をすすめるよう、環境省・兵庫県、神戸市、芦屋市などの関係行政に働きかけてゆく予定です。

問い合わせ

ブナを植える会事務局 〒652-0884 神戸市兵庫区和田山通1-2-25 D-102(有)桑田製作所内
 桑田 結 (H.P 090-3166-9785) FAX 078-652-7625